

一まいの絵 小磯良平

まさおくんは、町たんけんで、こいそきねんびじゅつかんへ 見学に やつて きました。

手さげかばんには、朝 早くから お母さんが 作って くれた おべん当が入って います。

まさおくんも 一生けんめい てっだいました。

大きな へやの 中に たくさんの 絵が かざられて いました。

「あつ。」

まさおくんは 一まいの 絵に 近づきました。家に ある 本で 見たことのある 絵を 見つけたからです。

「この 絵が 気になるの？」

立ち止って いる まさおくんに びじゅつかんの 人が 声を かけました。

「お父さんが すきな 絵なんだよ。見て いると 気もちが あたたくくなるんだって。」

まさおくんは 答えました。

すると、びじゅつかんの 人は、

「この 絵を かいたのは、こいそ りょうへいさんという 人でね。こいそさんは、大すきな 自分の 二人の 子どもを この 絵で えがいたんですよ。」

と、せつ明して くれました。

「えっ、そうなの……。自分の 子どもを かいたの。」

「こいそさんは、大すきな 子どもや 家ぞくの ことを 大切に 大切に 思って、この 絵を かいたんでしょね。」

まさおくんは、やさしい お父さんや お母さんの えがおを 思い出しな
がら 手さげかばんを そつと あけて、黄色い ハンカチに つつまれた
おべん当を 見ました。

本資料の著作権は兵庫県教育委員会に帰属します。
本文のすべてまたは一部について無断で複写して使用することを禁止します。